

平成26年度湯河原町人権教育に係る年間計画

湯河原町教育委員会

	現状(予想)	目的・ねらい	具体的方策	留意点	振り返り・評価	提言
4月	・平成25年4月10日の事案が、時と共に薄らいでいく危惧がある。	・平成25年4月10日の事案を、決して風化させることなく、町全体でこれからの「生きる力」とする。	【町】「湯河原町人権月間」を設定する。 ○教育長名で、各学校保護者に通知する。(相談窓口等も掲載する。) ○ポスターを作成し、町内に発信する。 ○町HPIに掲出する。	【町】ポスターは、湯河原中学校美術部に作成を依頼する。 ⇒4/4(金)午後に完成(四つ切画用紙版×4種類) ※各学校は「湯河原町人権月間」に係る4月の取組を、教育長に書面にて報告する。		1
	・入学、クラス替え、担任交代等もあり、児童・生徒の心の状況が不安定である。	・児童・生徒が、新しい人間関係を、望ましく構築していけるようにする。	①道徳の授業で「人権」に係る項目を、必ず2時間扱う。 ②学級活動の授業で「人間関係づくり」の内容(SST等)を実施する。 ③始業式、入学式、朝会、学年集会等で、管理職及び総括教諭から、「人権」に係る講話及び説諭を行う。	①「命」「いじめ」に特化しすぎるものの弊害も予想して、単元を計画する。「命を大切に」⇒「自死の否定」←とても重要なことであるが… ②「楽しかった」で終わらないように、振り返りを充実させる。 ③単発な話で終わらせることなく、クラスで必ず担任がその内容を落とし込む。		4
	・教職員の異動等で、いじめ問題等に対する指導方針やマニュアルの徹底が必要となる。	・教職員が、いじめ問題等を含む、児童・生徒指導の方針及びマニュアルを共通理解し、児童・生徒指導を行うための共通意識を持つ。	○4月の早い時期に、十分に時間を取り、「児童・生徒指導方針」「いじめ防止基本方針」「いじめ防止等対策マニュアル」等について、全教職員で共通理解を図る場を設定する。	○一回で不十分な場合は、十分に共通理解が図れるまで、繰り返し実施する。 また、形式的な伝達に留まらないよう、教職員同士の望ましい人間関係づくりを実現するための方策(例:会議の席次を意図的に設定する等)も示す。		5 10

※毎月行うこと

①児童・生徒指導のまとめを、紙面にて、町教委へ報告。

※事案発生時に行うこと

①まずは、第一報を町教委へ。(電話またはメール)

②後日、紙面にて町教委へ報告。

※その他

①「人権」及び「いじめ」に係る、児童・生徒対象の講演会を、各学校の人権教育年間計画に入れ、実施する。

【町①】学びづくりを基盤とした授業改善:

予算化、小中教員の授業参観校流(強制力の発揮)→支2

【町②】子どもフォーラム:年間通じた計画、学校との連携→支4

【町③】SSW・S:予算化→支6

【町④】地域への啓発・発信:情報発信→8、支9

【町⑤】関係諸機関との連携:指導主事がパイプ役→支10

	現状(予想)	目的・ねらい	具体的方策	留意点	振り返り・評価	提言
5月	・新しい環境にも慣れ始め、それに伴い、様々な悩み、トラブル等が発生する。	・担任とゆったりと時間を取って、話をする中で、児童・生徒に「安心感」を生む。	○教育相談週間(第1回)を実施する。	○児童・生徒と担任との1対1の教育相談を実施する。担任との顔合わせというスタンスでよい。したがって、時間を長くかけるのではなく「担任は相談にのってくれる、安心できる大人である」という印象を残すことが大切である。相談内容については、データ化し、学年教職員で共有し、データの保管については、パスワード等で保護するなど、適切に行い、当該学年が卒業するまで、厳重に保管する。卒業した翌年度末に適切に消去する。		4
	・年度が改まり、関係諸機関のメンバーも多少の変動があり、新しい職場での状況も少し落ち着いた。	・情報共有に基づく協議を行い、「お互いに顔が見える関係づくり」を目指す。	【町】学校サポート会議(第1回)を開催する。	【町】関係諸機関に、「学校に足を運んでください」という依頼を行う。「いじめ」に特化した協議を入れる。		9

	現状(予想)	目的・ねらい	具体的方策	留意点	振り返り・評価	提言
6月	・4、5月で解消できなかった事案に対し、児童・生徒の中に表出しにくい(できない)思いが積み重なっていることがある。	・言葉では表出しにくい(できない)思いを、文字により表出するチャンス設定し、児童・生徒の思いを把握する。 ・学級集団の状態や、子ども一人一人の意欲・満足感などを測定し、今後の指導に役立てる。	①生活アンケート(第1回)を実施する。 ↑ アンケートのひな形は、県を参酌し、町教委が提示する。 ②Q-U(第1回)を実施する。	①②書きやすい雰囲気づくりや言葉かけを意図的に行う。アンケートやQ-Uは、あくまでも児童・生徒理解を補完するものであり、日常での見取りや対話がベースにあることを絶対に忘れてはならないことを、教職員間でその都度確認する。 記載があったものへの対応は、学校がチームで対応するが、担任は必ず前面に出て対応する。 ①集計については、数値及び記載内容をデータ化し、原本は当該学年が卒業するまで、厳重に保管する。卒業した翌年度末に適切に処分する。		4
	・家庭訪問等も終え、保護者は担任の名前と顔が一致するが、何か課題が生じたときに「これくらいで相談するのは…」という思いが芽生える時期である。	・言葉では表出しにくい(できない)思いを、文字により表出するチャンス設定し、保護者の思いを把握する。	○保護者アンケート(第1回)を実施する。 ↑ アンケートのひな形は、県を参酌し、町教委が提示する。	○生活アンケートと同時期に実施することで、家庭での話題にしてもらう。 記載があったものへの対応は、学校がチームで対応するが、担任は必ず前面に出て対応する。 集計については、数値及び記載内容をデータ化し、原本は当該学年が卒業するまで、厳重に保管する。卒業した年度末に適切に処分する。		6
	・学校支援ボランティアが始動して、少しずつ軌道にのり始める。	・学校支援ボランティアコーディネーターと担当教員が共通認識の元、ボランティアの有効活用をする。	【町】学校支援ボランティアコーディネーター連絡会議(第1回)を開催する。	【町】各学校で、ボランティアとさらに協力し、よりよい教育活動の実現及び大人の温かい眼差しを学校に取り入れる。		支8

	現状(予想)	目的・ねらい	具体的方策	留意点	振り返り・評価	提言
7月	・夏休みを迎えるにあたり、落ち着かない状況にある。	・日常のやり取りやアンケートでは表出しにくい思いを把握する。	○保護者面談(第1回)を実施する。	○三者では話しにくい場合は、後日、保護者と教員の1対1で話をする機会を設定する。		4
	・学校は、4～7月の取組を振り返る時期にある。	・4～7月の取組を振り返り、成果、課題、課題解決のための手立てを分析し、夏休み以降の取組に生かす。	○4～7月までの取組を振り返り、教育長へ書面での報告を行う。 【町】各学校からの報告を、町長へ報告する。	○取り組んだ具体だけではなく、成果、課題、課題解決のための手立てを分析し、報告する。		3

	現状(予想)	目的・ねらい	具体的方策	留意点	振り返り・評価	提言
8月	・夏季休業中であるため、教職員が、夏休み前までの取組をしっかりと振り返り、夏休み後の取組について研究と修養に努める、より一層の時間的な余裕がある。	・夏休み前までの取組をしっかりと振り返り、夏休み後の取組について研究と修養に努める。	○いじめ問題、人権教育等に係る校内研修会を実施する。	○各学校の状況を分析し、各学校の喫緊の課題に対して、実践的な研修となるように、講師の選定も含めて適切に実施する。		支2
	・夏季休業中であるため、教職員が、夏休み前までの取組をしっかりと振り返り、夏休み後の取組について研究と修養に努める、より一層の時間的な余裕がある。	・夏休み前までの取組をしっかりと振り返り、夏休み後の取組について研究と修養に努める。	【町】いじめ問題、人権教育、幼小中連携等に係る、集合研修を実施する。	【町】町及び各学校の状況を分析し、町及び各学校の喫緊の課題に対して、実践的な研修となるように、講師の選定も含めて適切に実施する。		支1

	現状(予想)	目的・ねらい	具体的方策	留意点	振り返り・評価	提言
9月	・夏休みを経て、児童・生徒の人間関係も変化し、中には、表出しにくい(できない)思いを積み重ねている児童・生徒もいることがある。	・言葉では表出しにくい(できない)思いを、文字により表出するチャンス設定し、児童・生徒の思いを把握する。	○生活アンケート(第2回)を実施する。	○書きやすい雰囲気づくりや言葉かけを意図的に行う。あくまでも児童・生徒理解を補完するものであり、日常での見取りや対話がベースにあることを絶対に忘れてはならないことを、教職員間でその都度確認する。記載があったものへの対応は、学校がチームで対応するが、担任は必ず前面に出て対応する。集計については、数値及び記載内容をデータ化し、原本は当該学年が卒業するまで、厳重に保管する。卒業した翌年度末に適切に処分する。		6
	・夏休みの生活を通して、新たな人間関係や、自己を取り巻く環境の変化等が生じ、それに伴い、様々な悩み、トラブル等が発生する。	・担任とゆったりと時間を取って、話をする中で、児童・生徒に「安心感」を生む。	①教育相談週間(第2回)を実施する。	①児童・生徒と担任等との1対1の教育相談を実施する。生活アンケートを基にした教育相談を実施する。相談内容については、データ化し、学年教職員で共有し、データの保管については、パスワード等で保護するなど、適切に行い、当該学年が卒業するまで、厳重に保管する。卒業した翌年度末に適切に消去する。		4
	・県短期調査(第I期)がまとめ、その検証が必要となる。	・暴力行為及びいじめに特化した情報共有及び協議を行い、具体的な方策を検討する。	【町】学校サポート会議(第2回)を開催する。	【町】町民(保護司会長等)の意見や考えを聞き、具体的な方策に役立てる。		9

	現状(予想)	目的・ねらい	具体的方策	留意点	振り返り・評価	提言
10月	・運動会(小)、学習発表会(中)など、大きな学校行が実施され、児童・生徒も慌ただしい日々を送る中で、トラブル等が生じる可能性が高い。	・学校行事を通して、「みんなで一つのもので作り上げる」という意識の元、学校行事を成功させる。	○学校行事を作り上げる様々な場面で「人権」を意識した取組、指導、声掛けを行う。	○学校行事の目的に、必ず「人権」の部分を落とし込み、教職員間で共通理解する。必然的に、行事の目的は「勝ち負け」ではなくなるはずである。		4

	現状(予想)	目的・ねらい	具体的方策	留意点	振り返り・評価	提言
11月	<p>・大きな学校行事を経験し、児童・生徒の中には、表出しにくい(できない)思いを積み重ねている児童・生徒もいることがある。</p>	<p>・言葉では表出しにくい(できない)思いを、文字により表出するチャンス設定し、児童・生徒の思いを把握する。</p>	<p>○生活アンケート(第3回)を実施する。</p>	<p>○書きやすい雰囲気づくりや言葉かけを意図的に行う。あくまでも児童・生徒理解を補完するものであり、日常での見取りや対話がベースにあることを絶対に忘れてはならないことを、教職員間でその都度確認する。記載があったものへの対応は、学校がチームで対応するが、担任は必ず前面に出て対応する。集計については、数値及び記載内容をデータ化し、原本は当該学年が卒業するまで、厳重に保管する。卒業した翌年度末に適切に処分する。</p>		6
	<p>・大きな学校行事を経て、児童・生徒に何らかの変化が生じ、保護者がそれをキャッチしたとしても、「これくらいで相談するのは…」という思いが根強く残っている可能性がある。</p>	<p>・言葉では表出しにくい(できない)思いを、文字により表出するチャンス設定し、保護者の思いを把握する。</p>	<p>○保護者アンケート(第2回)を実施する。</p>	<p>○生活アンケートと同時期に実施することで、家庭での話題にしてもらう。記載があったものへの対応は、学校がチームで対応するが、担任は必ず前面に出て対応する。集計については、数値及び記載内容をデータ化し、原本は当該学年が卒業するまで、厳重に保管する。卒業した翌年度末に適切に処分する。</p>		6
	<p>・県短期調査(第Ⅱ期)がまとめ、その検証が必要となる。</p>	<p>・不登校に特化した情報共有及び協議を行い、具体的な方策を検討する。</p>	<p>【町】学校サポート会議(第3回)を開催する。</p>	<p>【町】支援教育アドバイザーのスーパーバイズを聞き、具体的な方策に役立てる。</p>		支5

	現状(予想)	目的・ねらい	具体的方策	留意点	振り返り・評価	提言
12月	・冬休みを迎えるにあたり、落ち着かない状況にある。	・日常のやり取りやアンケートでは表出しにくい思いを把握する。	○保護者面談(第2回)を実施する。	○三者では話しにくい場合は、後日、保護者と教員の1対1で話をする機会を設定する。		4
	・Q-U(第1回)から半年を経て、児童・生徒を取り巻く状況や本人の状態に変化が生じている。	・学級集団の状態や、子ども一人一人の意欲・満足感などを測定し、今後の指導に役立てる。	○Q-U(第2回)を実施する。	○書きやすい雰囲気づくりや言葉かけを意図的に行う。あくまでも児童・生徒理解を補完するものであり、日常での見取りや対話がベースにあることを絶対に忘れてはならないことを、教職員間でその都度確認する。 記載があったものへの対応は、学校がチームで対応するが、担任は必ず前面に出て対応する。		6
	・学校は、4～12月の取組を振り返る時期にある。	・4～12月の取組を振り返り、成果、課題、課題解決のための手立てを分析し、冬休み以降の取組に生かす。	○4～12月までの取組を振り返り、教育長へ書面での報告を行う。 【町】各学校からの報告を、町長へ報告する。	○取り組んだ具体だけではなく、成果、課題、課題解決のための手立てを分析し、報告する。		3

	現状(予想)	目的・ねらい	具体的方策	留意点	振り返り・評価	提言
1月	・冬休みの生活を通して、新たな人間関係や、自己を取り巻く環境の変化等が生じ、それに伴い、様々な悩み、トラブル等が発生する。	・担任とゆったりと時間を取って、話をすることで、児童・生徒に「安心感」を生む。	○教育相談週間(第3回)を実施する。	○児童・生徒と担任等との1対1の教育相談を実施する。相談内容については、データ化し、学年教職員で共有し、データの保管については、パスワード等で保護するなど、適切に行い、当該学年が卒業するまで、厳重に保管する。卒業した翌年度末に適切に消去する。		4

	現状(予想)	目的・ねらい	具体的方策	留意点	振り返り・評価	提言
2月	<p>・新年度をあと数カ月で迎えるにあたり、児童・生徒の中には、表出しにくい(できない)思いを積み重ねている児童・生徒もいることがある。</p>	<p>・言葉では表出しにくい(できない)思いを、文字により表出するチャンス設定し、児童・生徒の思いを把握する。</p>	<p>○生活アンケート(第4回)を実施する。</p>	<p>○書きやすい雰囲気づくりや言葉かけを意図的に行う。あくまでも児童・生徒理解を補完するものであり、日常での見取りや対話がベースにあることを絶対に忘れてはならないことを、教職員間でその都度確認する。記載があったものへの対応は、学校がチームで対応するが、担任は必ず前面に出て対応する。集計については、数値及び記載内容をデータ化し、原本は当該学年が卒業するまで、厳重に保管する。卒業した翌年度末に適切に処分する。</p>		6
	<p>・県短期調査(第Ⅲ期)がまとまり、その検証が必要となる。</p>	<p>・暴力行為及びいじめに特化した情報共有及び協議を行い、具体的な方策を検討する。</p>	<p>【町】学校サポート会議(第4回)を開催する。</p>	<p>【町】町民(保護司会長等)の意見や考えを聞き、具体的な方策に役立てる。</p>		9

	現状(予想)	目的・ねらい	具体的方策	留意点	振り返り・評価	提言
3月	・学校は、今年度の取組を、経営反省として振り返る時期にある。	・今年度の取組を振り返り、成果、課題、課題解決のための手立てを分析し、来年度の取組に生かす。	○今年度の取組を振り返り、教育長へ書面での報告を行う。 【町】各学校からの報告を、町長へ報告する。	○取り組んだ具体だけではなく、成果、課題、課題解決のための手立てを分析し、報告する。		3
	・教育委員会は、取組の点検及び評価を行わなければならない。	・今年度の取組を振り返り、成果、課題、課題解決のための手立てを分析し、来年度の取組に生かす。	【町】「地方教育行政の組織及び運営に関する法律第27条」に基づき、「いじめ防止」に係る取組の点検及び評価を行う。その結果と、管内各学校からの報告を元に、町議会にて報告する、	【町】「いじめ防止」に係る項目については、学識経験者の意見を最大限に活用し、毎年見直すことも必要である。		9
	・年度末を迎え、来年度に向けての体制作りが必要になる。	・情報共有に基づく協議を行い、来年度に向けての協力体制を維持する。	【町】学校サポート会議(第5回)を開催する。	【町】関係諸機関に、「来年度も、学校に足を運んでください」という依頼を行う。		9